

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1190900108		
法人名	株式会社サンテ		
事業所名	グループホームこころ		
所在地	埼玉県久喜市下早見1186-1		
自己評価作成日	令和6年10月19日	評価結果市町村受理日	令和6年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	kaigokensaku.mhlw.go.jp
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社シーサポート
所在地	東京都練馬区東大泉3-37-2
訪問調査日	令和6年11月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム「こころ」は、入居者が安心して、暮らすことができるよう家庭的な雰囲気で、ゆったりと過ごして頂けるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 法人内薬局、隣接のクリニックとの関係により切れ目のない支援が実現しています。クリニックが行うリハビリテーションに参加するなど健康維持向上への連携がなされています。
- 入居前からの習慣について継続できるよう支援しています。特に家事参加については洗濯物量など利用者の意思と能力を考慮しながら進めています。
- フロアにて食事の調理方法を変えるなど工夫しながら食事提供がなされています。食を生活の中での重要な位置づけとしており、常に検討しながら食材の仕入れ・味付けなどへの配慮に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念あり。理念共有の為、提示をしている。	ホームページ・パンフレットに理念・概要等を掲載し、周知を図っている。法人内薬局や隣接するクリニックとの連携をもって介護と医療の切れ目のない支援を継続している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為積極的ではないが、社協主催の行事等参加している。	地区のもちつき、機関による「ぼっちゃ」のイベントなどに参加し、地域との交流を果たしている。コロナ禍以前に招待されていた近隣小学校の運動会についても環境等の条件つきながら参加の希望をもっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援の方法は、地域の方に対しては、発信していない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ・インフルエンザなどの感染症対策として、実際の会議は行わず、資料を配布して、意見を頂戴している。	コロナ禍以降、書面での開催にてホームや利用者の状況を報告している。行政、地域包括支援センター、民生委員、社会福祉協議会、区長などとの関係性継続に努めている。	新型コロナウイルスの影響を受け、縮小せざる得なかった事項について以下検討対象としている。①運営推進会議の集合開催、②外出機会の増加、③家族との交流 取り巻く環境を考慮しながら進めていくことが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	以前よりお会いする機会は少ないが、何かあれば相談できる関係にある。	行政とは相談および物品の受け取りなどを通して支援を受けている。市内グループホームのネットワークはコロナ禍より中断しており、社内や関係機関からの情報共有にて取り巻く環境の把握に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に3回内部研修を通じて、取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会、研修等により適切な支援への指導に取り組んでいる。虐待防止、接遇など年間で研修を計画し、レポートをもってその理解確認にあたっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回は、内部研修を通じて、学ぶ機会を設けて、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、管理者が把握している。積極的に学ぶ機会を、設けていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護報酬改定の際には変更点をご家族に説明し、同意書を取り交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等については、契約時に重要事項説明書に受付窓口(外部窓口を含める)を記載している。	毎月のたよりの送付にて様子や状況を伝えている。本評価にともなう家族からのアンケートにおいても賞賛や感謝の声が多数寄せられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常業務の時から意見を聞いている。そのほかに定期的なカンファレンスや委員会会議などを通じて、積極的に意見や提案を聞く機会を設けている。	ホーム全体・フロア別のミーティングを毎月開催している。それぞれ研修、個別カンファレンスと役割が設定されており、運営と職員の双方向による話し合いの場となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、直接会議に参加して、管理者から意見を聞くなどし、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に2回、その時の課題に応じて、法人全体で研修を行う機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ・インフルエンザなどの感染症対策として、見送っているが、徐々に再開していく予定である。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報収取の際には直接本人とお会いする機会を設けて、不安な事があれば、解決できるように取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の段階から直接お会いして、当社に対するご要望について、対応できること、できないことを含めて返答し、安心して入居できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入の段階で、「その時」必要な介護計画を作成し提示している。入居後、落ち着いた段階で、再度計画を作成し、見直しをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の活動は、なるべく共に行うようにしているが、入居者の状況によりできなくなる時もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者に対し、ご家族でないと対応できないことなどに対し、協力して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者が会いたい人や行きたい場所など可能な限り実現できるように努めている。	入居前からの習慣について継続できるよう支援している。特に家事参加については洗濯物量みなど利用者の意思と能力を考慮しながら進めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が孤立しないように会話の間に入って支援したり、共同作業を行ったりするように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後でもボランティアを通じて、関わってくださるご家族もいる。また相談があれば、いつでも支援できるような体制は、とっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から本人の意思が見えるような支援をしている。意向を示すことが困難な入居者にはご家族を通じて、検討している。	利用者の意向や基本情報は一人ひとりファイリングされ、いつでも確認できるよう保管されている。利用者に質問しながら意向を確認するなど日々の暮らしの中で丁寧なアセスメントに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り情報は、徴収しているが、十分でない場合もあり、入居後も情報収集を継続している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの有する能力に応じた支援をしている。その日の心身状態に対しても申し送りなどをして、対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成前に担当者会議を開催し、意見やアイデアを収集している。	モニタリング、カンファレンスによる討議、プラン策定のサイクルが確立しており、管理と実施にあたっている。重度化への対応・医療との連携について具現化した計画となっている。	居室担当者の設置、居室担当者によるモニタリングの実施を企図している。職員の研鑽、利用者の支援充実につながるよう・職員の負担を考慮して実現を検討することが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の様子を記入する「生活記録」を個別に記録するほか、「連絡ノート」に記載された情報なども活用して、介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在は、既存のサービスのみで、多機能化は計れていない。ニーズがあれば、可能な限り挑戦したい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は、おおむね把握できているが、協働までには至っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医に対し、引き続き適切な医療が受けられるよう連携し、支援している。	法人内薬局、隣接のクリニックとの関係により切れ目のない支援が実現している。クリニックが行うリハビリテーションに参加するなど健康維持向上への連携がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者に変化に対する日頃の情報や気づきなどは、隣接しているクリニックに連絡、相談している。緊急時は、昼夜問わず、対応や受診の判断を仰ぐなどしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関が隣接しているため、常日頃から情報交換や相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の病状に応じて、緊急時の対応を含め、早めに話し合いの場を設けている。	重度化と終末期の支援について指針を策定し、入居時等に説明にあたっている。入院や帰宅等に対しても柔軟に対応し、利用者や家族の選択肢に対してサポートするよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルがある。書類での研修は行っているが、訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生時のマニュアルはあるが、地域との協力体制までは築けていない。	避難訓練の実施、備蓄の整備により万一の事態に備えている。委員会による検討を中心に水害対策についてもリスクを把握し、避難方法の確認がなされている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりに対して、人権を尊重した言葉かけを行っている。	利用者との関係構築に注力がなされており、時に気分転換を図る・丁寧に傾聴することがこころがけられている。利用者同士のトラブルに対しても職員が間に入りながら支援にあたっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望などを拾い上げ、自己決定できるような働き掛けはしているが、十分でないこともある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や就寝時間など本人の意思を尊重し対応するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着たい衣類の着用や身だしなみの習慣(お肌の手入れ、髭剃り、整髪など)も都度対応するようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	火を扱う作業などは、職員が行っている。他の作業ではご本人の意思や希望に応じ、できるだけ実現できるように支援している。	フロアにて食事の調理方法を変えるなど工夫しながら食事提供がなされている。食生活を生活の中での重要な位置づけとしており、常に検討しながら食材の仕入れ・味付けなどへの配慮に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や飲水も一人ひとりの能力に応じた形状や種類にしたりして、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行うことで、清潔を保持している。必要な方は、介助している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間をチェックすることで、排泄の失敗を防ぐことができるように声掛けや誘導を行っている。	バイタル・食事・入浴などとあわせて排泄の記録が一覧として保管されている。ポータブルトイレの管理、間隔への医師への相談と処方依頼など体調管理の幹として大切に捉え、支援にあたっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のために運動を促したり、乳酸菌飲料を勧めたりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入浴日は決めている。入浴したくない日や用事がある時は、日時の変更をしている。	「浴槽とバスボードのレイアウトが変更できる」・「リフト付きのシャワーキャリー」が設備された浴室にて清潔保持を実施している。多数取り付けられた手すりや職員による留意により安全な入浴支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や状況に応じて、共用のリビングで過ごしていただいたり、それぞれの居室で休んでいただいたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服している薬の効果や副作用について把握するようにしている。服薬後の入居者の状態について、医師や薬剤師に都度相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全ての入居者ではないが、生活の中で楽しや役割を見つけていただけるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日当日の希望には応じられないが、事前に把握できている希望があれば、家族にも協力を仰ぎながら、外出できるように支援している。	感染症予防の関係により散歩が難しい場合は駐車場での外気浴などにて外出支援に努めている。また天候等で難しい場合は制作活動などにて代替し、生活の中で利用者の楽しみを見いだせるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内にお金を使う場はないが、本人の安心感につながるため、無くなってもよい程度の金額を所持していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があれば、電話していただけ。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の構造上、迷うことがないようにシンプルなつくりをしている。季節がわかるよう掲示板に飾り付けをしたり、大きな窓から外を眺められるようになっている。時計も大きい文字盤のものを使用している。	共有空間は大人の生活の場として落ち着いた雰囲気となっている。写真を掲示して会話の基にするなど皆で集うリビングが形成されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用リビングにソファを置き、ゆったりと過ごせる場を提供している。普段から気の合う入居者が談笑しながらくつろいでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来るだけ、ご本人が自宅で使っていた馴染みのある生活用品を持参していただくようお願いしている。	全室に介護ベッドが設置されており、収納・洗面などの個別化もなされている。テレビなどを持参するなど自室においてもプライベートな空間を楽しめるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、安全に生活ができるような作りになっている。トイレやお風呂場、ご自身の居室がわかるように表示も大きくしている。		

(別紙4(2))

事業所名：グループホームこころ

目標達成計画

作成日：令和6年12月22日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成 に要する期 間
1	26	・ユニット固定後の職員のモチベーション維持。 ・ステップアップの機会が少ない。	個別ケアを実施することでスタッフの意欲や技術の向上を目指す。	・内、外部の研修の参加 研修資料を作成することで知識の植え付けや再確認が出来る。 ・居室担当者の設置 モニタリングの実施。 ・常に情報共有出来るような環境作り	12ヶ月
2	4	・家族、地域住民との交流が出来ていない。 ・外出機会が少ない。	地域との繋がりや関わりを増やしていく。	・運営推進会議の集合開催の検討 ・近隣や市の行事等の参加 ・家族の施設内行事参加や面会の促進	12ヶ月
3					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。